

第8回 教育委員会 会議録

1 開催日時 令和6年8月22日（木）午後1時30分

2 開催場所 大町市役所 庁議室

3 出席委員 教 育 長 中 村 一 郎
同 職 務 代 理 者 中 山 晴 隆
委 員 下 川 清 志
委 員 森 し の ぶ
委 員 北 澤 明 美

4 説明のため出席した者

教 育 次 長	—
学 校 教 育 課 長	飯 島 秀 美
生 涯 学 習 課 長	藤 卷 孝 之
兼山岳博物館館長	
ス ポ ー ツ 課 長	牛 越 秀 仁
兼国民スポーツ大会準備室長	
学校教育指導主事	吉 澤 清
学校教育指導主事	山 岸 澄 雄
学校教育課学校再編係	渡 邊 哲 也

5 事務局 学校教育課庶務係長 平 林 晃

6 傍聴者 — 名

中村教育長：ただいまより第8回教育委員会を始めたいと思います。

前回の会議録の承認ということで回しておりますので、確認していただきご署名の方よろしく願いいたします。

では最初に教育長の報告ということでお願いします。

中村教育長：教育長報告 資料により説明

中村教育長：教育長報告に関し、何かご質問等ありましたらお願いします。

下川教育委員：美麻小中のキョウイク展望会議とは初めて聞いたような気がしますが。

中村教育長：これはずっと開催しているものです。以前は先生方で1学期の振り返りをして、2学期をこんなところに力を入れてやっていこうと、みんなで話し合っていたものです。

山岸教育指導主事：キョウ育のキョウは、「共に」という字で、教えるではないです。共に育てる共育展望会議ということで、コンセプトはそこなんです。いわゆる地域、学校、共にみんなでということです。

学校運営について、全職員と運営協議委員が集ってやるもので、それを八坂小中も初めてせせらぎ校舎でスタートし、非常に実のある会議となりました。

中村教育長：東小でも一学期にやったものも同じスタイルです。

下川教育委員：スタイルは同じだけど、会議の際の教育長のコメントが東小に対して結構きついなと思ったのですが、美麻小中でやっていることと、どういう風に違うのでしょうか。

山岸教育指導主事：やり方は様々ですけど、校長が作る経営ビジョンの重点項目がいくつかありますが、それをチームリーダーは、振り返りをしながら、ワールドカフェスタイルで移動して大勢の人がすべての項目について振り返っていくというスタイルをとっています。

下川教育委員：それぞれのまとまりはテーマが決まっていて、そのテーマについて、全員が一通り、自分の意見を言ったりするというものですね。

山岸教育指導主事：基本、魅力ある学校づくりのシートの項目に対応して、それが反映されていくということですよね。

中村教育長：東小と何が違うかというと、協働の学びについて話し合うとしたら、その協働の学びの理解のレベルが全然違う。

美麻小中学校の方では、話し合いをするにしても、それをリードする人が、とても理解しているので、話し合いが、自分たちの指導のことについての振り返りになる。東小の方は、子供をただ評価しただけの話し合いになっており、自分たちの振り返りになかなか繋がっていなかった。それぞれの学校のレベルがあるかなというふうに思います。

下川教育委員：私は、初めて学校の振り返りの中に地域の人が入って、まずスタートとしては、学校の先生から見た子供の姿と、地域から見た子供の姿、それぞれを確認し合い、子供の姿がどうなっているかという変化は重要だと思っていて、その辺を確認できたのではないかと思う。

次に、共育の共の字を使っているのはいいなと思います。

教育というのは、「教え育てる」ということで、最近は学んで育つということで「学育」みたいな言葉もいいかなあと思っています。

これは教育大綱の話の中で、今後、話題にしたいなと思っていました。

良いお話を聞かせていただきました。ありがとうございました。

中村教育長：他にはありますか。

(意見なし)

中村教育長：それでは4番目の報告事項ということで、学校における事件・事故等についてお願いします。

飯島教育課長：学校における事件・事故等について 資料により説明

〔内容非公開〕

中村教育長：それでは議事の方に移りたいと思います。

では最初に第21号令和6年度大町市一般会計補正予算第3号について、お願いいたします。

飯島教育課長：第21号令和6年度大町市一般会計補正予算第3号について 資料により説明

藤巻生涯学習課長：第21号令和6年度大町市一般会計補正予算第3号について 資料により説明

中村教育長：補正予算の説明がありましたが、何かご質問等ありましたらお願いします。

下川教育委員：ICTの活用の33万円ですが、10台分とおっしゃってましたが、10台で33万円ということですか。

飯島教育課長：そうです。当初に10台分と見ておりまして、さらにそれからまだ修繕が必要なものが増えましたので、10台分を追加いたしました。

下川教育委員：では、当初予算を年間通して10台で33万円を計上していたけど、現時点でプラス10台分ということですか。

飯島教育課長：合計で60万程度は予算を今回追加しましたので、年間予算としては60万程度で見ております。

下川教育委員：どんな修理というか、どんな故障になるのですか。

飯島教育課長：キーボードが壊れたり、電源が入らないような状態になったりと、いろいろな症状はありますが、1つ修繕するのに、概ね3万円ぐらいかかってしまいます。更に何か足りないものがあればそれに追加費用がかかりますので、実際3万円ですむのかというと、そうでもない部分もありますが一応、査定の結果、これだけをつけてもらいました。

下川教育委員：昨年度に比べて今年は増えているとか、そういう傾向はありますか。

飯島教育課長：例年並みだとは思いますが。

下川教育委員：トイレの洋式化ということで、具体的に進んでいるという南小のトイレですが、その前段として設計する。全トイレ対象でやるとしたら、どういう形でということ業者を依頼するということでしょうか。

飯島教育課長：令和7年度に実施する工事の実施設計になりますので、今から入っていきます。

実際、改修する部分につきましては、全部で54ぐらいのトイレがありますので、事業費としては6,000万近くにはなるのではないかなというような見込みであります。

下川教育委員：後で話したいと思いますが、旧一中の改修工事と、南小のトイレ洋式化工事が先行してますが、校舎はどういう形で、新校にもっていくかという基本設計、実施設計、工事という流れの線表が示されてないと思う。

この前の再編準備委員会でも、旧一中の工事が、私は12月に終わるという線表で考えていたのですが、説明の中で、2月になるということもあったので、その辺について、北部も南部も含めて、工事関係の線表はどうなるのかということ、最後にお時間いただいて、お聞きしたいと思っております。

このトイレの洋式化工事についても、その線表の中に入れていただけるとわかりやすいのではないかと思います。

飯島教育課長：再編関係のところで一応再編準備委員会でお話した内容の資料は、私が口頭で説明した資料につきましてはつけさせていただいてあります。

またその時にお話します。

森教育委員：ICT機器についてですが、ひどい状態での修繕も多いようですが、補償というか、保険はクロムブックにかけてあるのでしょうか。

飯島教育課長：保険はかけていないです。

昨年度も保護者の方に負担していただいたケースも2件あったというように記憶しております。過失割合が大きくて、投げつけてしまったとか、車で引いてしまったっていう事案があったようで、それにつきましては保護者の方の過失割合が大きかったので、保護者負担で直していただいたということもあります。学校の使ってる中で壊れてしまったようなものについては、都度、都度、直すような形になります。

森教育委員：保護者の方とトラブルとかは大丈夫でしたか。

飯島教育課長：その時は、聞いた話ではなかったようで、保護者の方からお申し出いただいたのかなと思います。

中村教育長：ICT機器の修繕費は、他の市町村でも、とても課題になっているようです。

要は、家に持ち帰るということが推奨されてますので、持ち帰るといろいろと破損が多くなってくるということがあります。

これで、リース切れで全部更新するのが令和 8 年度になるのですが、どうしても、その辺は致し方ない部分であると思います。

下川教育委員：全体で 1,500 台ぐらいあると思うのですが、その中の 20 台と考えれば多いのか少ないのかという話はあると思うのですが。

実態はこういうことであるということで理解しておきます。

中村教育長：数的には少ない方かと思います。他の市のことを聞けば驚くような数字であります。

それでは、この議案第 21 号については、お認めいただくということでよろしいでしょうか。

〔意見なし 承認〕

中村教育長：ありがとうございます。

では続きまして、議案第 22 号、令和 5 年度大町市一般会計歳入歳出決算の認定について、お願いいたします。

飯島教育課長：議案第 22 号 令和 5 年度大町市一般会計歳入歳出決算の認定について 資料により説明

藤巻生涯学習課長：議案第 22 号 令和 5 年度大町市一般会計歳入歳出決算の認定について 資料により説明

牛越スポーツ課長：議案第 22 号 令和 5 年度大町市一般会計歳入歳出決算の認定について 資料により説明

中村教育長：令和 5 年度の決算については、大きく変動したところについてを中心にご説明いただきましたが、委員の皆様から何かご質問はありますか。

森教育委員：体育施設の利用料ですが、大町市と同じ規模の自治体では、体育施設利用料はどのようになっているかわかりますか。

牛越スポーツ課長：大体比較検討しております。

ただ、そこが、いわゆる 100%減免という規定を持ってない市が多い。

100%減免というのは、学校や部活での使用とかの特殊なものであり、一般の大人の使用で 100%減免ということを通算してないところがほとんどとなります。

ただ、もう 1 つ言えるのは、その施設の状態となり、例えば野球場がありますが、市営野球場は正直かなり老朽化しております。あれが 1 時間いくらかという単位でお貸ししておりますが、その設定している利用料が高いというご批判をいただきます。

一方で、松本の市営球場のようなすばらしい施設になると、1 日借りれば相当な金額になりますし、バギーなどの整備器具を借りるのにもお金がかかる。

したがって、そういうことも含めて施設の状態、単価、そこの見直しもそうですし、先ほどの減免の率の適用の仕方についても、多くの方から意見をもらいながら見直していく時期だろうと考えています。

中山教育長職務代理者：スポーツ課長が言われた通り、見直しをして、検討をして、市民の方にもご理解を得ながら、維持管理のためにはぜひやっていったらいいなと思います。

森教育委員：生涯学習課の青少年育成事業のところでお聞きしたいんですけど、夏休み中各地区の子ども会連絡協議会で様々な子供たちのための企画運営をしてくださって、ありがたいことだなと思っています。この育成会に関わってくださっている方たちの報償費というのはどのようにでているのでしょうか。補助金の中でやりくりをしているのですか。

藤巻生涯学習課長：そうです。各地区に補助金を出していますので、その中で賄っていたというようになります。

下川教育委員：学校教育課の I C T の活用推進事業で、昨年に比べ 12% 増えています、どの辺が昨年と比べて増えてるのでしょうか。

L T E の通信料が 1,400 万円となっておりますが、端末を入れた直後というのは、700 万円とか 800 万円ではなかったかなと思っておりまして、これが年々ふえてきているということでしょうか。

飯島教育課長：これは定額ですので、購入当初から定額だと思います。現在も月 120 万程度が定額のもので、毎月定額で 120 万というのが設定されていますので、これについては大きく変動はないと思います。

下川教育委員：令和 8 年度に端末の更新に向けて議論していくと思いますが、この L T E を次の端末でどうするのか、これは一つの議論のポイントかなと思います。先生方とか子どもたちがどういう形で使っているのか。

飯島教育課長：自宅に持ち帰る以上、L T Eの方がいいのかなとは思っております。

下川教育委員：結構、自宅でW i - F iを持っている家庭が多くなってきており、それを利用することを視野に入れて検討すべきでは。最初、L T E導入を判断した時は、他の町村はしてなくて、やはりいいなと思っていて、今も修学旅行で行った先で、その端末で情報が取れたりするので、いいとは思いますが、そんなに安くはないので、もう一度端末の入れ替えの時に議論してもいいかなと思います。忘れずにお願いしたいです。

飯島教育課長：中学ではW i - F i が使えている状態で、今、旧一中についても使える状況なので、北部小は使えるのかなと思います。

ですので、L E TとW i - F i 両方使えるような状態になっておりますので、どちらかに切り換えることができれば、経費節減になるのかなとは思いますが、自宅や校外活動でW i - F i ができないところもありますので、そういうことがあると、L E TとW i - F i 両方使えた方が、利便性はあるのかなとは思ってます。

下川教育委員：W i - F i が無かったり、修学旅行先っていう場合には、別に端末があるので、それを契約して使用するという案もあるので、ぜひ検討をお願いします。

飯島教育課長：令和8年度更新なので、令和7年度中に検討させていただきたいと思います。

北澤教育委員：学校教育課のコミュニティスクール推進事業の中で、報償費の学校コーディネーターの活動謝礼というのがあるのですが、ここに4校挙がっていますが、あとの3校はどのようになっているのでしょうか。

以前に公民館長が兼ねてる場合は、業務の時間帯だと支払われていないというような話は聞いたのですが。

飯島教育課長：実際、南小学校と八坂小中につきましては公民館長さんがやっておりますのでそちらの方については、報償費は発生してはおりません。

あと西小学校については、一般の方がやっていたとは思いますが、ちょっと報告はされてなかったなので、今回のお支払いする謝礼の中には含まれてはおりません。

山岸教育指導主事：コーディネーターの方には詳細をお伝えして、ぜひ申請してくださいというご案内をしているのですが、昨年度から、西小の北沢コーディネーターは請求を出されないという形で、発生していないです。

北澤教育委員：西小のコーディネーターの方は、ご厚意でやってくださってるような形になっているということですね。

飯島教育課長：一応 1 時間 1132 円となっております。活動時間については 561 時間ということでご報告がいただいております。

北澤教育委員：現在のこのあり方が、そういう形でいいのかどうかという点で、今はいいとして、次に違う方がコーディネーターをされた時に、前任がこうだったから、出したくても出せないということがあったらどうなのかなと。

この謝礼については、検討の余地があるのではないかと思います。

中村教育長：西小のコーディネーターの方にもお話しをしていかなければいけないかなと思っています。

ご辞退はされているわけなんです、コーディネーターの仕事をしていただいている訳ですので、それに対してそれに見合った形での報酬を支払うというのは当然だと思います。

中山教育長職務代理者：学校教育課の事務局一般経費の報償費で、様々な委員の報償費ですが、これは教職員も対象に支払われているのですか。

飯島教育課長：はい。対象になっております。

中村教育長：では、議案第 22 号、令和 5 年度大町市一般会計歳入歳出決算を各課で出していただきましたが、承認ということによろしいでしょうか。

〔意見なし 承認〕

中村教育長：では協議事項に移りたいと思います。

最初に、1 学期の児童生徒の長期欠席及びいじめ認知の状況ということでお願いします。

山岸教育指導主事：令和 6 年度 1 学期における児童生徒の長期欠席及びいじめ認知の状況と 2 学期の対応について 資料により説明

中村教育長：1 学期の長期欠席といじめ認知の状況についてご報告をいただきましたが、この件につきましてご質問等ありますか。

中山教育長職務代理者：非常に具体的に取り組んでおられる事が、改善したことだと思います。特に不登校支援会議のところと、アルプスの家の関係とか、スクリーニング、これは非常に大事なところだと思っていて、その大事なところを取り上げて、大きく改善ということはないのかもしれませんが、改善の方向が以前よりも相当期待できると感じました。

具体的な取り組みをする学校全体の雰囲気づくりとか、改善できる期待が持てるということを感じました。ぜひ取り組んでいただければと思いました。

特に支援会議に関して、会議はあるけど次にどうするのかというところがあまりないようなイメージもあったので、非常に具体的な視点で切り込んでいるなと思いました。

下川教育委員：私も中山先生と同じ感想です。本当にいろいろな具体的なアクションの結果が出始めているなと思います。

7ページの(2)にCOCOLOプランがでてきていますが、これこそ、関東甲信越静で研修を受けたもので、システム化も一部されていて、それに取り組む自治体には支援金を出すみたいな話もありました。

システム化してどうなるのかというのは、よくわからないのですが、ただ、ここで山岸先生がCOCOLOプランも引用されて、そのいいところを活用しようというふうに考えていただいて、とても心強く思いました。

実は明日の大町中訪問の時に、ちょっと不登校が上向きだったので、学んだCOCOLOプランも含めて、校長先生なり指導主事の先生とお話ししようかなと思っていました。

こういう視点で見ていただいていて、とてもいいなと思いました。

山岸教育指導主事：学校の教育システムでC4thという仕組みがあるんですが、それが改訂されて、毎日学校の欠席数や欠席状況などを、市全体の市教委としてのそういうページもあって、学校で何人、誰が何日休んでいると、毎日明らかにされる。学校ごとにももちろんいけます。

ですので、こころ模様とかの仕組みもちょっとフットワークよくなってきたので、毎日、私眺めているのですが、日々変わっていく情報のつかみみたいなものは非常によくなってきたと思うので、うまく使っていきたいと思っています。

下川教育委員：そういうデータを一瞬にして見る仕組みで、その中で変化を抽出するってことで活用できるということですね。わかりました。

北澤教育委員：アルプスの家の活動について教えていただきたいんですけども。

今現在、日によって、利用人数が違ってくと思うんですが、概ね延べ人数となると、大体どのくらいの方が利用されているのでしょうか。

山岸教育指導主事：昨年度末の在籍数が 25 人でした。本年度は 1 学期で 16 人です。

今までは入室するとずっと何年間も来なくても在籍して子が多かったんですが、年度ごとに、入退室をきちんとしようということで、去年 3 月一旦切りまして、4 月に改めて入室届を出してもらい、指導員と保護者との間で確認を取って、4 月にスタートしたんですけど、現在 16 人です。

常時来てる子は 4・5 人いて、4 月当初は朝だけ利用するという子供たちもありました。小学生も朝だけ来て、ちょっと 30 分いて戻ってくる子もいたのですが、このアルプスの家のイベントの活動に参加してきてくれて、学校の行事に行けるようになったりとか。

一つの手として、ポレポレ野の花さんとかアルピオンの方を紹介するという形で先生方にもお願いしてあります。

北澤教育委員：こういうイベントの場合は、アルピオンとかポレポレの方からも来て参加することは可能としているのですよね。

山岸教育指導主事：昨年度からアルピオンの川崎さんと連携して、来たり行ったりしています。

中村教育長：イベントについては、届けを出していなくても参加 OK としています。

今、市内だけなんですが、市外にも広げて欲しいという声も去年あったのですが、まだそこまでの余裕は、今の段階では無理かなというところです。

森教育委員：不登校についてお聞きしたいんですけど、要因として、無気力っていうのがあったかと思うのですが、その背景にあるものっていうのは、分析は進んでいるんですか。

山岸教育指導主事：その分析についても、文部科学省が行う問題行動調査については、どちらかというと学校サイドです。

今年は質問項目が変わって、「相談があったか」という聞き方で、学校はカウントをだしてくるのですが、実際のフリースクールとかの団体で取るものは、本人や保護者の要因という形で取ってくるので、その無気力についても非常にあやしいと感じています。

どっちかという、多岐に及んでいます。限定的にこれということはないのですが、つぶやく子もいれば、そういうことをしない子もいて。

今日の説明にあった、ある小学校の子供は、僕は友達との関係でいじめられてということのをポッと S S W につぶやいたことで見えてきた。

だから本当がどこにあるのかっていうことは、いろんな調査が行われ、まとめますが、自分としては、すべてじゃないと思います。

中山教育長職務代理者：大町中に不登校支援で市から加配で行っている先生が3・4人いると思うのですが、その先生方の具体的な子供への関わりですとか成果とか課題とか、もしそういうのがあればまたどこかまとめている項目に加えていただければありがたいなと思います。

山岸教育指導主事：昨年度、大町中でそういう仕組みの中でやった時に、やはり戸惑いはあったようです。教育委員会として望むスタイルももちろん出して、それを理解してやっていく中で、現在、朝、この担当者が全員集まってミーティングをして、1日の流れを確認して進めていくことと、各学年にそれぞれ分担して入って、学年会に出て、スクリーニングも含めて、いろいろその情報を掴んで、支援会のミーティングに出ていただきました。

以前は学年主任の先生に出てもらったのですが、その担当の方になってもらって、説明をしてもらうということや、先ほど高校見学の事を言ったのですが、担当が複数ついて、子どもたちを高校見学に連れて行ってくれるというのも新たな動きで、すごく機能的に進んできていると思います。

年度末に振り返りの時間を取ってるので、そんなことをまた伝えていきたいなと思います。

中村教育長：大町中はその仕組みが大分整ったのですが、各小学校については、とてもまだそういう段階にはっていないというのが現状です。

ここで新しいこの学校が再編される上で、不登校支援員の人数の問題もあるのですが、何をやってどういう成果が出たというのがやはり、見えてこないことには、予算要求しても認めてもらえないので、そういう点は小学校の方でも、不登校支援の仕組みづくりをきちっと作って、そこに当たる先生はこういう仕事をして欲しいということを、明確にしなければいけないということは思っています。

ただ、現在、学校側の都合のいいように使ってしまうという、そういう部分もなきにしもあらずですので、その辺はちょっと考えていきたいなと思います。

中山教育長職務代理者：個人的な感じで言うと、特別支援コーディネーターみたいなものが、平成16、7年あたりから各校に配置されてきているのですが、大町市として、すごくいい配置だと思っています。その先生が何かをするということもあるし、アルプスの家のように、いろいろな講師を呼んでやっているみたいに、この子のためにはこの支援はこうコーディネートして、外部の誰かを呼んできて、その人と一緒に何か活動するとか、何かそういうような形での成果というよりも何かコーディネーター役で活動しているという事例が具体的にあれば、それが予算要求的なものになるかなと思う。

成果という行政上の財政サイドからすると、不登校生徒が 30 人から 20 人に減りましたというようなことが成果となると思うのですが、その先生がコーディネートしてこの子がこんなに生き生きする場面ができてきましたというようなことも、予算要求の一つのもとになればいいなと思いました。

下川教育委員：関東甲信静で、不登校支援の研修を受けた時の資料で、不登校の原因について、保護者とか子どもにアンケートをとった結果が示されていて、その中に先生との相性というのが結構な比率で出ていました。よく言われる不登校の原因の分析は学校サイドで、先生が分析しているデータが出てきている部分があると思うのですが、意外とその中で、子供たちと自分とのミスマッチみたいなのは上がってきてない。そういう分析でした。

やはり子供たちのつぶやきとか本音を聞く、それに対して対策するというのも重要になるのではないかと思います。

きめ細かく、それぞれの子供に対して、いつ、どこで、誰がやるという中で、その子供の本音を感じるなり、聞くということで進めていただいていると思うのですが、そういうのは重要だなと思ってお話をしました。

中村教育長：では続きまして令和 6 年度の全国学調の結果とまとめについて、お願いします。

吉澤学校教育指導主事：令和 6 年度全国学力学習状況調査の結果とまとめについて
資料により説明

中村教育長：ただいま、今年度の学調の結果とまとめについて、ご報告をいただきました。ご質問等ありましたらお願いします。

森教育委員：中 3 の子たちが小 6 の時の結果と比べて大きな変化があったのかということは少し気になりました。苦手だったものが得意になったとか、そういったことがわかれば、お聞きしたいのですが、また、今日ではなくてもいいので教えてください。

中山教育長職務代理者：昨日、大町中の学校運営協議会で学校の先生方と学校支援について懇談会があったのですが、その中で、今年から転勤してこられた先生ですが、都市部から大町市に来たのですが、都市部の子たちと大町中の子たちと、大きく違うことがあるかということが話題になって、2 つありました。

家庭での学習時間が圧倒的に少ないということと、自分から自分をアピールするという部分で、その先生も、大町中まだマスクなら取れないよねって、要するに自分を表に出そ

うという意欲が少し弱いのかもしれないというところから、都市部の子どもたちは、いい意味で前に出たりとか、或いは会全体を仕切ったり、司会をしたりとかチャレンジする力があるのだけど、大町の子はおとなしいよねというような言い方をされたのですね。

家に帰ってただ勉強すればいいという話でもないけれど、さらにこの意欲といいますか、先ほどのクロス集計のところにててきたように、自己有用感や自己肯定感が強いと、いろんな意味で伸びていくということもあるので、家庭での勉強時間を増やせという指導ではなくて、今やっていることを取り組むことによって評価の観点の1つとして、「家庭学習が増えた」とか、「積極的に自分をアピールした」とか、「委員会の委員長をやってみたい」とかというのは、そういうところを、有用が増えたかなと、大町市として評価してみるというのも、手かもしれないなと話を聞きながら、そして今日結果を見ながら感想を持ちました。

下川教育委員：今、先生のおっしゃったことで、アピール力、何か主体的な行動とか主体的に動こうという気持ち、それはイコールなんでしょうか。

中山教育長職務代理者：相関性はちょっとわからないですが、例えば美麻小中みたいに、ずっと協働的な学びをやってきていて、今年の授業参観に主幹の方と一緒にいったときに、先生方が例えばICTの活用なんかで、すごく向上した学校というのがありました。そういうようなところを、業務改善してく中で、子供たちが結構伸びているような印象でずっといたんですよ。

大町も協働の学びとかをやってきて、子どもたちの積極性とか或いは自分から発言するとかいう力が延びてきている気がしましたし、子供たちがまとめたり、プレゼンテーションする力というのも結構ついてきてるような感じはしていて、大町頑張っているなというように思ったのですが、他地区から来られた先生から見るとまだまだ足りないというように、まだおとなしいという感じ。だから、チャレンジングというか、成功することの見通しがないと一歩前に出せないような部分があって、失敗することも、次のチャレンジの1つのきっかけになるので、そういうことでもいいという部分の子供たちの意識というかがまだ弱いのかなという感じがしたので、今やってることのクロス集計プラス、子供たちの生活の中で、或いは学習や家庭での生活の中で変わってきているもの、例えば、新聞を読んでもる子ほど、学力が高いとか、読書の経験が多い子が高いとかニュースとかでやっていますが、例えば調べ学習をやってる中で、ただネットで調べるだけではなくて、文献とか本とかを読んだりテレビのニュースを見たりとか、新聞を読んだりとか、そのようなところから情報を得る姿が積極的になってきたというところとか、何か違うところの評価で我々が見る観点としてもっていてもいいのかなと思った次第です。

学校訪問とかしてみても、大町市は非常によく頑張っているなという印象があるので、それは今後も続けていっていいと思うのですが、もっとチャレンジングっていうか、失敗してもいいという部分のところを育てることも必要なのかなと少し思いました。

中村教育長：課題はあると思いますし、その挑戦する力とかそういうものは、やはりいろいろ調査を見ても、「将来、夢と希望がありますか」というと大町の子供たちは、全国や県と比べても、当てはまるという子供がすごく少ないです。その辺はやはりキャリア教育だけの問題ではないのかもしれないですし、地域性もあるのかもしれないですし、よくわからないのですが、いろいろな部分の調査では、こう伸びてきているのですが、将来への希望とか夢というところになると、極端に下がってきてるという傾向は、ここ5年ぐらいの間、ずっと同じような感じであります。

あと、不登校がこれだけ多いということについても、これは全国的な傾向ですけど、やはり何かあるのかと感じてしまう。そうしたら今年の学調を見ると、「学校に行くのが楽しいですか」という、肯定的な回答がとても少ないんです。

そして、否定的な回答が増えてしまった反面、「自分には良いところありますか」という質問に対しては、全国を大きく上回るような、そんな状況が出てきています。

その辺のアンバランスというのは、どういうところから生まれてきているのかということも、すごく今回の調査結果には感じてはいるので、その辺を現場で子供たちと接している校長先生方と意見交換をぜひしていきたいと思っています。

中山教育長職務代理者：付け足すと、一緒に参加した学校運営協議会の人達が、進学の部分で、地元に残りたいという意識の子たちが非常に増えているような気がするというのが出ていて、その話をいろいろ聞きながら、最近いろいろところで「マイルドヤンキー」というのを聞くようになって、昔、学校にけんかしに行ったり、バイクを乗り回したりとかいうものなんですけど、非常に地元が大好きで、地元の中ではちょっとつっぱっているのだけれど、その地元愛が結構強くて、それほどの悪さはしないのだけれど、ちょっと外ればい、でも地元大好きみたいな、そういう子たちが非常に増えているということをニュースで聞く時もありますけど、いい意味で大町が大好きで大町に残るということならいいが、大町以外の高校で、不合格になることを恐れて、チャレンジする気持ちが弱いのではないかなというのが保護者側から出たので、やはり失敗を恐れずに挑戦してみるとか、せっかくキャリア教育とか、総合教育的な学習とか、いろいろな面で大町中は取り組んでおられるので、それが子供たちの失敗を恐れない気持ちということにも繋がってくれば、この学調も少し変わるのかもしれないなと思いました。

中村教育長：ありがとうございます。

それでは、次に学校再編の関係でお願いします。

飯島教育課長：学校再編について 資料により説明

中村教育長：学校再編につきまして、説明をいただきましたが、皆さん何かご質問がありましたらお願いします。

森教育委員：校章の件で、投票についてのスケジュールは、具体的にどのようにしていくのか決まっているのですか。

飯島教育課長：先日のことですので、具体的に学校側とは調整はしておりませんが、早い段階でやった方がもちろんいいとは思いますが。

開校までに制作物がどのぐらい決まらなないと間に合わないとかそういうことではないのですが、緞帳ですとか校旗ですとか、そんなに時間がかかるものではないので、でも時間かけて児童が関わる方がいいというご意見でしたので、なるべく早めにはやりたいと思いますが、皆さんの総意が図れるような形には、もっていきたいと思います。

下川教育委員：校章の話が出たので。今回、準備委員会の皆さんの意見をきいて、やってしまったと思ったのが、やはり子供の意見を聞くというか、子供たちが入ってなかったことでした。

確かに私も忘れていましたが、大町中の時は有識者の方と生徒代表の方が入って決めていました。

その辺、今回、この資料だと投票にPTAの方も入っているのですが、全児童と全保護者の意見を聞くと。そもそも校章の提案の段階で、子供たちが結構出していたので、その部分で参加していて、最終決定まで、子供たちの意見をくださいという形になったので、いいことだと思います。今までの進め方に関して自分なりに、子供ファースト的な考え方を持たなくてはいけないなと思いながら、今回、動きについては、そういうのが欠落していたのを反省しています。

この前の準備委員会の結果は、今日まとめていただいたペーパーになるので、これで、進めるのかなと思うのですが、ただ、最初からPTA、子供たちの意見というスケジュールを想定した場合に、今回その4点に絞り込むっていう、アクションになったのかということも考えてはおります。

それを考えたのは、専門委員会の委員の皆さんの意見、南と北の漢字1文字は、もう私は削除しましたという意見があつて。

南と北、今の校章に入っている漢字一文字がそのままいくのはどうかという話と、校章のペアリング、セットでというのが、今回投票の対象に入っていないということとか、あと、今の校章を組み合わせ、合体して考えているのも入っていたり、考え方をどうするかという部分について、準備委員会であれだけ議論したので、こういう流れでいいと思う

のですが、これからPTAの方とか、子供たちの意見を聞いた場合に、その辺の疑問が出てこないのかな、来たときにどういうふうに対応していくのかなというところを、ちょっと心配はしています。まだ時間はあるようなので、今回、投票数も書いていただいています、各委員4つを選んで、全体でどのくらいの数になったのかなと思って。1票でも入っていた案件、要するに私はさっきの南部北部のローマ字のやつ、そういう考え方で言えば、投票の候補には入ってきて、ちょっと私の頭の半分以上が、ペアリングがいいのではないかという頭であるわけで、これは少し乾先生はどう思ってるか、でもああいうところで発言したのは乾先生も1つの選択の考え方としてあるので、それを入れてほしいというご意見だと私は思っていて、ただ、会長の方で、そこまで考えてしまうと、收拾がつかないということで、会長の判断でみんなこうしたので、確かにペアリングで出してる部分が結構あって、そういうのも私はやはり、私の考え方でいうと、この段階で、捨てるのは、どうかと思っていて、ですので私としては1票でも入ったものを対象に入れて、やるっていうのはどうかと思っています。

ただ、そういう意見もあるということで、委員会のまとめとしてはこういう形なんではないと思います。

続いて工事についてなんですけど。

今回、線表をお示しいただいたのですが、以前、示していただいた線表だと、旧一中の改修が7月スタートで、令和7年の12月完成というような線表をいただいて、それが今回後ろにずれてますが、なぜそうなったのかというところを教えてください。

12月完成というのは、結構いいと思っていて、逆に2月だと厳しい部分が出てくるのではないかと考えています。

1つは西小の先生が、令和8年度の新1年生の事前学校説明会的なものが、できれば校舎ができた後ということで、これは先生が最初から言ってることで、12月でしたら私はいいだろうと思っていたのと、それから間際の校舎完成だと、支援が必要な子供たちは特に、場所が変わることに対するストレスというのがあるんで、社の家庭教育懇談会でも、早めに新しいところに行って、場所を確認するのと、できれば一緒に過ごし、支援が必要な子供たち或いは保護者も含めて、その場所で何か交流ができればいいねという話もあったので、それが2月完成だとちょっと厳しいかなと思っています。

あと、新校で使用する備品の搬入のスケジュールも、工事中にもできると思うのですが、その辺も厳しくなるのではないかなと思います。

ですので何らかの理由で、こういう線表を今考えざるをえないということだと思うのですが、なぜこんなにずれているのかといったところを、私は教えてもらいたいです。

飯島教育課長：4月の当初には私は9月の議会に本契約について上程するというスケジュールを聞いておりました。

それでやっても工事については十分間に合うと聞いてきていたのですが、工事経費を積算する中で、資材の物価高騰ですとか、工事担当の値上げというのが大幅に増加しているとのことで、そういった中で、実施設計のまま工事になると、予算の中でも納まらない部分もありましたので、その中で実際の設計を見直し、必要なものはやる、必要でない工事はしないというような感じに仕分けするという作業をしているのですが、その中で、9月の本契約が難しいということになりまして、12月議会に契約締結の議案を上程するという形のスケジュールでも、開校までには、間に合うということと、実際、全面改修ではなく、学校の外側はでき上がっていますので、その中の工事になりますので、全面的に使っているわけではないので、その中で備品の搬入ですとか、そういうことは実際可能なことなので、少し作業が遅れてはいますが、令和8年度開校には間に合わせられるので、実際、設計の精査というのは大事な作業になってきますので、そこがきちんとしてないと、入札したときに、不調になったりしないためにも、今の作業は、十分時間をかけて慎重にやる必要があるというように判断したものですから、その時間を費やして、今いるところでございます。

下川教育委員：再編ニュースとして旧一中の施設改修レイアウトを示していますが、このレイアウトから変わる部分があるのかどうか。

特に野本先生が支援級の教室数について2月に要望を出した時の数が確保できているのかというところにも通じる話で、今、お金が高騰して、工事費を10億に抑え込もうとして、その中で、教室数が減るとかということになりそうなのかどうか。

飯島教育課長：教室数が減るとか増えるとか、そういうことはありません。

下川教育委員：支援級も可動式を固定式にして欲しいですとか、或いはオープンスペースを固定式の壁だから現状を残して、そこを支援級の教室にするとかで対応するという説明をしていたので、その辺は大きく変わらないっていうことでよろしいか。

飯島教育課長：野本先生からいただいてたご要望については、答えた形の設計になっています。

下川教育委員：9月議会が12月議会に3ヶ月遅れることになりますが、12月の議会のあとにプロセスとして、工事をやる業者選定は、議会可決後ということになるのですか。

飯島教育課長：議会で本契約をします。本契約をする前に、業者については選定されます。業者選定は10月に公告するので、そのあと仮契約をすることになりますが、本契約す

るには、議会にかけないといけないので、12月の議会に本契約を可決してもらって、それですぐ工事に入れます。

下川教育委員：わかりました。そうするとやっぱりスタートが遅れるので、2月に完成ですね。

飯島教育課長：当初は12ヶ月の工事期間ではなくて、見ていたのは確か15ヶ月ぐらいかかるというはずでした。

それが工事の内容から設計を精査した結果、12ヶ月で工事が収まるという話になりました。ですので、12月から始まると、ただ余裕を見て、いろいろ完了ととなると、書類から何からすべてそろってというところですので、実際現場としては、もう少し早めにはできると思われます。ですので、来入児の見学も大丈夫なのではないかというところなんです、今のところ、まだ契約になっていないので、そこがはっきり言えないところです。

中村教育長：よろしいですか。

他に何かございますか。

〔意見なし〕

中村教育長：小学校再編については以上にしたいと思います。

その他についてありますか。

牛越スポーツ課長：国スポ実行委員会及び陸上競技場とサッカー場の管理棟の建替え工事について 資料により説明

中村教育長：以上で協議の方は終わりにしたいと思います。

あと連絡事項ということでお願いいたします。

平林学校教育庶務係長：当面する日程及び今後の教育委員会等の日程について 資料により説明

中村教育長：以上をもちまして、第8回教育委員会の方を終わりにしたいと思います。

ありがとうございました。

《午後16時30分 終了》